



展示中の民具（机・筆箱・行灯）

# ねりまの文化財

練馬区教育委員会  
社会教育課  
(文化財保護係)  
☎3993-1111 内線 2766  
〒176 練馬区豊玉北6-12-1

郷土資料室 〈特別展〉開催中!

## 民具は語る——練馬のくらし

平成3年6月27日まで

石神井台二丁目 (石神井図書館内) ☎3996—〇五六三

人々は、昔から、暮しの中で用いるさまざまな用具を、工夫して改良したり、新しい道具を作ったりしてきました。それらの品々の中で、日常生活に用いられる物品を、民具と呼んでいます。広義には、これらに日常の生産にかかわる道具類をも含めて、民具と称しています。

今日、都市化の進展につれて、人々の生活様式が変化して、これらの民具は使用されないうまま、物置の中ではこりをかぶっています。時折、郷土資料室で頂戴するのも、このような民具で、江戸・明治・大正・昭和のそれぞれの時代が刻み込まれています。

今回は、衣・食・住に関する民具を展示しています。民具を通して郷土の文化と生活を知ると共に、人々の暮らしの知恵を再発見してみましよう。

### 平成2年度

### 指定・登録文化財

平成3年2月12日、次の文化財を、新しく指定・登録しました。これにより、指定文化財は6件、登録文化財は59件となりました。

#### ▽指定文化財△

- 北条氏康印判状 道場寺・石神井台1-16-7
- 町田家文書 町田和雄・東大泉7-25-21
- 中里の富士塚 中里富士講・大泉町1-44
- 大八車 教育委員会・郷土資料室

#### ▽登録文化財△

- 相原家薬医門 相原好吉・田柄5-8-3
- 横山家文書 横山明・高野台1-7-1
- 新井家文書 新井忠之・桜台3-45-10
- 縄文時代の竹カゴ 教育委員会(管理)
- 金銅製飾具 教育委員会(管理)
- 尾張殿鷹場碑 井口重吉・南大泉1-15-34
- 氷川神社富士塚 氷川神社・北町8-22-1
- 沢庵漬製造用具 教育委員会・郷土資料室
- 中村囃子 中村囃子連(代表・上原茂男)

#### ◎パンフレット

民具は語る——練馬のくらし

#### ◎期間中の休室日

月曜日・祝日・3/29・4/26・4/30・5/24

# 太平記と練馬区

テレビドラマで有名になった『太平記』は、今から約五三〇年前に完成された軍記で、南北朝を中心にした五〇年間の動乱史であります。この中に、練馬区や豊島氏などに関係のある史実や所伝も含まれ、石神井川沿流の石神井城・練馬城に関連した記述もあるので、二回に分けて紹介します。

太平記は、その複雑な内乱のてんまつから、大きく三つに区切られます。

◎第一部——北条時宗の孫高時が若年で執権となり、都では後醍醐天皇が即位。やがて帝

元弘3年(一二三三)5月初め、遂に反旗をひるがえした尊氏らは、京都六波羅を攻めて探題(長官)北条仲時らを敗走自刃させ、北条方と共に討死した中に豊島一族や、白子川沿流に所伝をもつ高橋・隅田・庄氏一族がありました(近江蓮華寺過去帳より)。

5月末、尊氏に呼応して新田義貞軍が挙兵。分倍河原の激戦で豊島氏・庄氏の一族が活躍。また、土支田八幡宮の由緒に、義貞が戦勝祈願のため家臣篠塚伊賀守を代参させ、社前に植えた松のち「伊賀の松」と呼ばれたとい

の討幕運動(元弘の変)となり鎌倉幕府滅び、高時ら北条一門の壮烈なる討死と自刃。

◎第二部——公家中心の建武の新政失敗。北条高時の次男時行が反乱して鎌倉占拠(中先代の乱)。新政に失望していた足利尊氏は鎮庄に名を借りて東征後、弟直義と共に反乱、新田軍を破り上洛。以後南北朝の抗争続く。

◎第三部——尊氏兄弟、執事高師直兄弟、相互に乱れての内部抗争(観心の乱)。師直・直義殺害され、6年後尊氏も没し、北朝優位のうちに義満三代将軍となり基礎固まる。では第一部に関係する事を述べましょう。

う伝説が練馬にもあります。

このように、一族の動向は一樣ではなく、武士も惣領と庶子が分立対抗して、次第に戦国的になるのも南北朝期の特徴であります。

次に第二部では、「中先代の乱」と石神井の関係について述べましょう。

太平記に「武士四海ノ権ヲ執ル世ノ中ニ、マタナレカシト思フ人ノミ多カリケリ」とあります。この期待をいち早く捉えたのが尊氏兄弟の軍事と行政力でした。この時、先に幕府滅亡後、信州に逃れた執権高時の次子北条時行は、新政のさ中の建武2年(一二三五)

7月、諏訪頼重時継父子に擁せられて武蔵へ乱入。女影原・小手指・府中などで、鎌倉を守る直義軍を破り敗走させて占拠しました。

ところが、この乱の鎮庄に名を借りて東征した尊氏兄弟が、新政に反対し南北朝の内乱になることはご承知のことと思います。

太平記には、破れた時行は鎌倉大御堂内で、面皮のない四〇数名の武将自害者の中の一人であろうとされ、痛まれたとあります。

しかし、北条系図によれば正平8年(一二三五)5月、尊氏に捕えられ鎌倉の竜ノ口で処

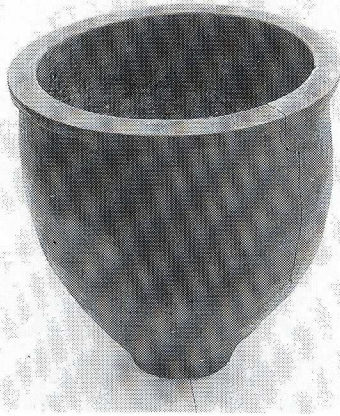
## 文化財保護推進員

### 瓜生 清

刑されています。すると逃れてから一八年間どこに潜行し、鎌倉奪回の機をねらっていたのでしょうか。義貞の遺志を継いだ嫡子新田義興と行動を共にしたことは後に述べます。石神井城主であった豊島氏系図(泰盈本)の中の景村・輝時の項に「左近太夫従五位下、石神井城主景村は、兄九代泰景没後、その子一〇代朝泰幼年の為、兄の遺領五郡を継ぐ」とあり、また子がないたため輝時を養子にしたとあります。

次に輝時の説明には、「左近将監兵部大輔従五位下、石神井城主輝時。実は北条高時の

郷土資料室収蔵品シリーズ 第7回



藍がめ (高さ86cm)



アイの絵

次子時行の子である。始め時行潜行して豊島景村の館に隠れた。この間一子を生み、城主景村嗣子なく、養育して子とした。鎌倉將軍基氏(尊氏の子・関東公方)に謁して家督を継ぐ」と記され、鎌倉臨濟禪の大岳和尚を開山として、道場寺を創建したといわれます。

藍は葉藍を藍小屋に堆積し、これに時々水をかけては切り返しをした。こうして約三カ月間発酵させると黒い腐葉土のようなものになる。これを臼に入れてつき固め、藍玉を作った。この藍玉を上の写真のような「藍がめ」に入れ、木灰などを加えながら発酵させて染料とした。藍屋では、藍がめを数十個地面に埋めた形でもっていたそうである。一部の農家では、藍玉を自分の家で作り、藍がめに入れて保存し、藍屋に売った。

藍づくりは、練馬では江戸時代末期から始められ、明治には最盛期を迎え、大正の終りごろまで続いていた。アイはタデ科に属する一年草で、葉に藍色の色素を多量に含み、野良着・ふだん着などの染料として用いられた。春の彼岸ごろ種をまき、開花直前の夏土用に刈り取る。これを天日で乾燥させ、乾いた葉を粉にしてかますに詰めた。農家ではこの葉藍を作って藍屋に売るのが一般的であった。藍屋は葉藍を藍小屋に堆積し、これに時々水をかけては切り返しをした。こうして約三カ月間発酵させると黒い腐葉土のようなものになる。これを臼に入れてつき固め、藍玉を作った。この藍玉を上の写真のような「藍がめ」に入れ、木灰などを加えながら発酵させて染料とした。藍屋では、藍がめを数十個地面に埋めた形でもっていたそうである。一部の農家では、藍玉を自分の家で作り、藍がめに入れて保存し、藍屋に売った。

文化財特別講座「博物館の見方・楽しみ方」  
 ○20(水) 講義「博物館今・昔」ガイダンス  
 講師―練馬区学芸員 小金井靖  
 ○21(水) 講義「まちの博物館」  
 講師―明治大学講師 熊野正也  
 ○22(水) 講義「世界の博物館いろいろ」  
 講師―元東洋大学教授 玉口時雄

○23(水) 講義「博物館と『知』の冒険」  
 講師―江戸川区学芸員 樋口政則  
 ○24(木) 川崎市市民ミュージアム・世田谷区郷土資料館の見学  
 今回は、難しいテーマ、約一ヶ月間の講義でしたが、延べ二五三名の方に参加して頂きました。参加者の感想をご紹介します。

練馬区にもほしい博物館

今回の文化財講座は、博物館という共通のテーマで四人の先生方の講演を聴きました。まず、博物館には美術館、動物園、植物園なども含まれるということを知りました。全体を通じてわかったことは、これからの博物館は、「実生活に即した」、「体験することの出来る」、「生涯学習の場となる」ところであるべきだということです。四回ともスライドを見せていただき、国内・国外の博物館の展示方法の多様さに興味を持ちました。川崎市市民ミュージアムは、体験して楽しめる新しいタイプの博物館でした。また世田谷区の郷土資料館で、年代を経た茅葺の代官屋敷を見たときは感激しました。

練馬区には区立美術館、牧野記念庭園がありますが、生活に関する博物館がありません。楽しく学習が出来、「ねりま」を生かした博物館がほしいものだと思います。(M子)

# 第37回 文化財防火デー

毎年1月26日は、昭和24年(一九四九)のこの日、法隆寺金堂で火災があり、壁画が焼損したことを機に、全国で防火運動が展開されます。

これに先立つ24日に、石神井消防署管内の道場寺(石神井台一丁目)で、放水・通報・消火器操作等の訓練が行われ、石神井小学校、石神井台保育園、清心幼稚園、一般区民等、約70名が見学しました。26日は、光が丘消防署管内の土支田八幡宮(土支田四丁目)で訓練が行われ、中里幼稚園、北大泉・土支田保育園の園児等約300名が見学しました。教育委員会では、文化財防火デーの行事を

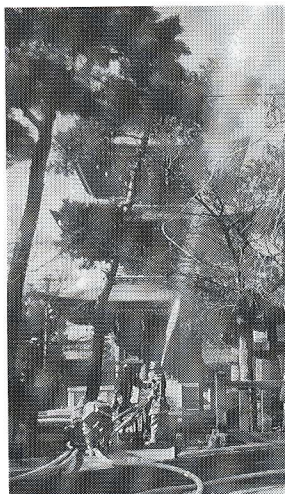
## 文化財日誌

平成2年12月1日～3年3月31日

〈12月〉

- 4日 文化財保護推進委員会
- 5日 埋蔵文化財試掘(石神井町三丁目)
- 6日～7日 埋蔵文化財試掘(東大泉七丁目)
- 17日 納屋・民具等調査(大泉町一丁目)
- 20日 文化財保護審議会(全体会・第3回)
- 25日～27日 埋蔵文化財試掘(大泉町二丁目)

通して、区民の皆様は文化財を大切にすることを育っていただけようように努めています。このため、区報等でお知らせしたほか、会場では文化財保護推進員や郷土資料調査員が、記念品を配布しました。(写真は道場寺)



〈1月〉

- 5日 民具調査・運搬(大泉町一丁目)
  - 9日 埋蔵文化財実踏(旭町三丁目)
  - 10日 " (富士見台三丁目)
  - 16日～19日 納屋解体調査(大泉町一丁目)
  - 24日 文化財防火デー演習(道場寺)
  - 26日 " (土支田八幡宮)
- 〈2月〉
- 8日 埋蔵文化財立会(石神井台一丁目)
  - 13日 " 試掘( " )
  - 18日 " 立会(下石神井六丁目)
  - 20日 文化財特別講座(第1回)

〈編集後記〉

大泉町二丁目にある清水山憩いの森では、桜の花の頃から4月下旬まで、カタクリの群落が可憐な花々を咲かせています。都会では珍しい自然の群落であり、練馬区の登録文化財(天然記念物)となっています。このカタクリは土地所有者の協力や、様々な方々の努力によって守られてきました。都市の中の自然は私達に潤いとやすらぎを与えてくれます。積極的に守り、育てていく時代になってきたと思います。



- 26日 埋蔵文化財立会(富士見台四丁目)
  - 27日 文化財特別講座(第2回)
  - 28日 埋蔵文化財実踏(東大泉七丁目)
- 〈3月〉
- 4日～8日 埋蔵文化財試掘(大泉町三丁目)
  - 5日 文化財保護推進委員会
  - 6日 文化財特別講座(第3回)
  - 13日 " (第4回)

- 14日 練馬白山神社大ケヤキ保護工事着工
- 14日 文化財特別講座(バス見学)
- 25日 武蔵関北遺跡調査開始